



取扱説明書

高圧洗浄機

GSW15C-H

お買い上げいただき、誠にありがとうございました。

この取扱説明書をよくお読みのうえ、正しくお使いください。

ご使用前に、「安全に作業するために」を必ずお読みください。

お読みになった後は、いつでも見られる所に必ず保管してください。

注意

エンジンとポンプにオイルは入っていません。

使用し始める前に必ずオイルを入れてください。

はじめに

このたびは、本製品をお買いあげいただきましてありがとうございます。

この取扱説明書は、安全で快適な作業を行なっていただくために、製品の正しい取扱い方法、簡単な点検及び手入れについて説明してあります。

ご使用の前にこの取扱説明書をよくお読みいただいて十分理解され、本製品がいつまでもすぐれた性能を発揮できるようにこの冊子をご活用ください。また、お読みになったあと必ず大切に保管し、分からないことや自信の持てないことが起きた時には、取り出してお読みください。尚、より良い製品をご提供するために製品と本書の内容が一致しない場合がありますので、予めご了承ください。本製品についてお気付きの点がございましたら最寄の取扱店にお問い合わせください。

- 取扱説明書は大切に保管してください。
- 紛失した場合は最寄の取扱店にてお買い求めください。
- 本製品を改造することは、安全で快適な作業に支障をきたすだけでなく、大変危険ですのでおやめください。

■使用用途について

本製品は次のような洗浄作業にご使用いただけます。それ以外でのご使用はしないでください。

- 土木、建築機械及び農機具などの洗浄作業。
- 温泉、浴場施設、プールなどの屋外施設の洗浄作業。
- 店舗の看板、テントなどの洗浄作業。
- 自動車のボディ、足まわりなどの洗浄作業。
- 窓ガラス、ショーウィンドウ、床面、壁面など建物のメンテナンス時の洗浄作業。

また、本製品は洗浄用です。農薬、化学薬品、高粘度液、海水、温泉水及び高温水の使用はできません。

この使用用途を逸脱しての使用が原因での事故や許可なく改造及び分解を行い、それに伴って生じた事故は、お客様の責任になります。

■機械を他人に貸すとき、運転させるとき

親切心が仇にならないように、機械と一緒に取扱説明書を渡し、よく読んで理解し取扱方法を体得してから作業するように指導してください。特に禁止事項については念を入れて説明してください。

■注意事項について

この取扱説明書では、特に重要と考えられる取扱上の注意事項について、次のように表示しています。

- ！ 危険** . . . もし警告に従わなかった場合、死亡又は重傷を負う事になるもの。
- ！ 警告** . . . その警告に従わなかった場合、死亡又は重傷を負う可能性があるもの。
- ！ 注意** . . . その警告に従わなかった場合、けがを負う可能性があるもの。
- 注意** . . . その警告に従わなかった場合、機械の損傷の可能性があるもの。

※「注意」この取扱説明書には、国際単位を表示しております。下記の換算数値をよく読んでご理解の上ご使用ください。

量	新計量法対応表示	換算	従来の表示	備考
面積	[m ²] (平方メートル)	10000[m ²] =1[ha]=100[a] =10反歩=3000坪	[a] (アール) [ha] (ヘクタール) 坪、町歩、反歩	※①
回転速度	[s ⁻¹] [min ⁻¹] (回秒) (毎分)	1[min ⁻¹]=1[rpm]	[rpm]	※②
力	[N] (ニュートン)	9.8[N]=1[kgf]	[kgf] (重量キログラム)	
力のモーメント	[N・m] (ニュートンメートル)	9.8[N・m]=1[kgf・m]	[kgf・m]	
圧力	[Pa] [N/m ²] (パスカル) (ニュートン毎平方メートル)	0.98[MPa]=10[kgf/cm ²] 9.8[Pa]=1[mmH ₂ O]	[kgf・m] [mmH ₂ O]	
工率・動力	[W] (ワット)	735.5[W]=1[PS] 9.8[W]=1[kgf・m/s]	[PS] [kgf・m/s]	

※注意事項 ①土地面積については、[a]、[ha]を使用することがあります。

②単位時間における回転数については、「回転数」ではなく、「回転速度」と表示します。

目次

1.  安全に作業するために	3
2. 各部の名前とはたらき	8
3. 主要諸元	10
4.  警告ラベルの取扱い	11
5. 始業前の準備	11
6. 始業点検	15
7. 始業運転	16
8. 始動	16
9. 運転	18
10. 洗浄ノズルの使い方	19
11. 停止	20
12. 作業終了後	20
13. 保守点検	21
14. 長期格納	22
15. 故障診断	23
16. サービスと保証について	24

1. ⚠️安全に作業するために

(1) はじめに

ご使用前に必ずこの取扱説明書をよく読んで正しい安全作業を行ってください。

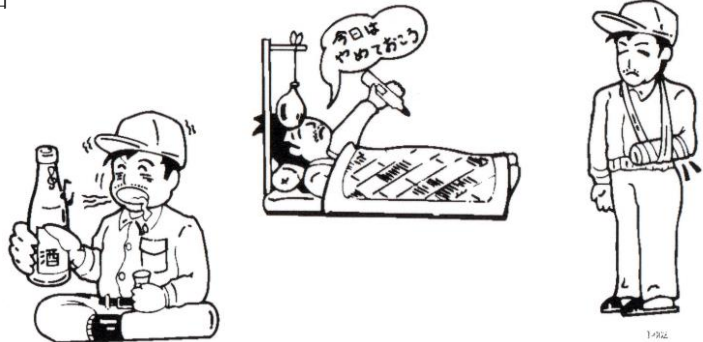
「安全に作業していただくために、ぜひ守っていただきたい注意事項は下記の通りですがこれ以外にも本文の中で ⚠️危険・⚠️警告・⚠️注意・注意 としてそのつど取り上げています。」

(2) 作業前にこれだけは守りましょう。

■ こんな人は、作業してはいけません。心身ともに健康な状態で作業してください。

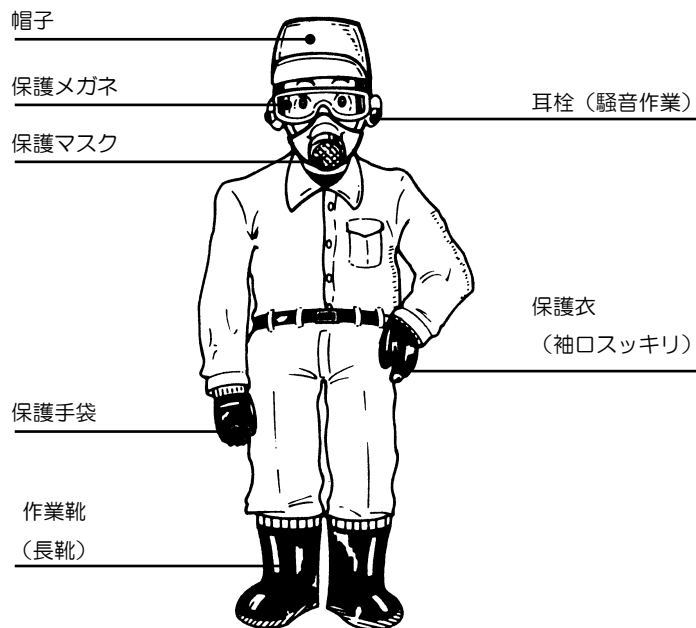
- 過労、病気、薬物の影響、その他の理由により正常な作業ができない人
- 酒気をおびた人
- 妊娠している人
- 16歳未満の人
- 未熟練者
- 作業者以外

■ 服装は、作業に適していますか？



● 作業に適し、体にあったものを着用してください。

高圧洗浄中には、泥・砂の跳ね返りで思わぬ怪我（失明）をする場合があります。洗浄作業中は、防護メガネを着用してください。



- ・ 保護具はつねに正常な機能を有する様、点検・整備を行い、正しく使用してください。
- ・ 騒音が大きい場合はイヤーマフまたは耳栓を着用してください。
- ・ 作業領域には作業者以外の人を近づけないでください。

(3) ご使用するときの注意

■燃料について

燃料は引火しやすいので、火災防止のため、次の事項を守ってください。

- 燃料の補給は必ずエンジンを停止し、冷えてから、行ってください。こぼした時はよく拭き取り乾かしてください。燃料に引火して火災の原因となります。
- 燃料補給タンクから 3m 以上離れて始動してください。

火気厳禁



⚠ 警告

燃料の補給や手入れをする時は火気を近づけないでください。

■エンジンについて

- 車両にて移動する時は燃料を抜き取ってください。火災の原因となります。
- エンジンは運転中、停止直後は高温です。マフラー、シリンダーヘッド、シリンダフィン等に手を触れるとヤケドします。特に一度暖まったエンジンを再始動する時は注意してください。
- エンジンを始動する時はマフラーを触らないでください。ヤケドします。
- エンジンの運転中、点火プラグや高圧コードには触らないでください。感電する恐れがあります。

換気と可燃物に注意



⚠ 警告

- 室内、車内、倉庫、トンネル、井戸、船倉、タンク内等、換気の悪い場所では運転しないでください、一酸化炭素中毒になります。
- エンジンの排気ガスは吸ったり、吸わないように注意してください。一酸化炭素中毒になります。
- マフラー及び排気口付近に障害物や燃えやすいものがあると、発火するおそれがあります。設置の際には十分注意してください。

■高圧ホースについて

1. 取付けについて

⚠ 警告

- 継手金具のシート面、ネジ部のキズ、汚れは漏れの発生や継手金具間の離脱の原因となる為、目視により外観異常のないことを確認してください。
- 継手金具接続時にホースを引張らないでください。引張りが掛かった場合、継手金具の取付け部等に応力が集中し、抜け、破損の原因となります。
- 継手金具接続時にホースがねじれていないか確認してください。

2. 取り扱いについて

- 最高使用圧力（15 MPa）以上では絶対に使用しないでください。
- 高圧洗浄用ホースは絶対に改造しないでください。

⚠ 危険

- 噴出する高圧水は皮膚を貫通し、ひどい傷害や感染症を生ずる可能性があります。素手でホース及び継手金具の漏れを決して探さないでください。非常に小さな孔から漏れている高圧水は簡単に見えない場合もあり、ひどい傷害を引き起こす可能性がありますので漏れの調査には、常に厚紙あるいは木片を使ってください。

！ 警告

- ・ 高圧洗浄用ホースを車などで踏みつける又、折り曲げ（キンク）させるとホースパンクや性能低下の原因となります。右図のように折り曲げ（キンク）、ホースに結び目が出来ている状態でホースを引張るとホースが屈曲し破損、事故の原因となります。



！ 警告

- ・ 作業時にはホースの状態を確認し、「3. 取替え基準について」の項目に該当していないことを確認してください。

注意

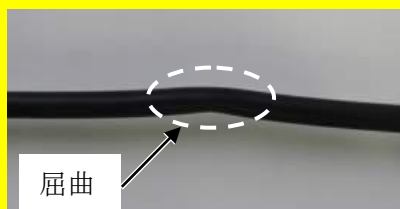
- ・ ホース及び継手金具の外力による変形及び外傷はホース性能の著しい低下を招く恐れがあります。

3. 取替え基準について

下記の現象が現れましたら使用せず、速やかに取替えてください。

！ 警告

- ・ 外面層破れ（大、小、多、少にかかわらず）補強層が露出しているのを発見した時。
- ・ ホースに下図のような屈曲または、偏平が確認された時。



- ・ 外面層の劣化により補強層まで達する亀裂が生じた時。
- ・ 継手金具に著しい腐食が発見された時。
- ・ 継手金具の形状に異常（ワレ、スパナ等による変形、ソケット部の加締め筋の磨耗）が発見された時。
- ・ ホースと継手金具にズレが生じた時。
- ・ 「2. 取り扱いについて」の項目にて、該当する取扱いがなされた時。

4. 保管について

下記項目を参考に保管するようにしてください。

！ 注意

- ・ 保管場所は乾燥した冷暗所が最適です。40℃以上の高温状態や直射日光を避け、オゾンその他の有害なガス等のない場所を選択してください。
- ・ 薬品、油、溶剤などのゴム及び、金属に有害なものが付着する場所は避けてください。
- ・ できるだけ平坦な所に置き、積み重ねたり、変形させない様に保管してください。
- ・ 外傷、その他に注意し保管することが適切です。
- ・ ホース保管の際は、内面に水や異物が溜まっていない事を確認してください。長時間水分や異物がホース内部に溜まるとホースの寿命低下の原因となります。
- ・ ホース長期保管の際は、防錆処置を施してください。
- ・ 高圧洗浄用ホースは、リールやその他収納器具へ取付け時、ホースがねじれたり、折り曲げ（キンク）状態にならない様にしてください。

■本機について

◎準備及び作業前の注意事項

- 取扱説明書をよく読んで機械の操作に慣れてください。
- 点検・準備・整備はエンジンを停止して行ってください。ケガをします。
- 作業員以外の人や動物を作業領域に近づけないでください。事故の原因となります。
- 作業前に清水で運転し、各部の異常や漏れがないことを確認してください。
- 飲料用水源及び生物を飼育している湖沼からの直接吸水は、絶対に行わないでください。
- 作業・設置・移動・保管時に本機のフック部でケガをしないよう十分注意してください。

◎移動時の注意事項

- 運転中に本機を移動しないでください。移動は、エンジンが十分冷えてから行ってください。火災やヤケドの恐れがあります。
- 本機は重量物です。開梱時など持ち上げる必要があるときは、無理に一人で持ち上げたり、無理な姿勢で持たないでください。腰を痛めたり、機械落下によるケガの原因となります。
- 本機を必要以上に傾けたり、移動時に手を離さないでください。機械転倒によりケガをします。
- 車両にて移動するときは、車両内で固定してください。転倒・移動により事故を起こします。

◎設置時の注意事項

- 設置した際に、排気方向は塞がないでください。排気ガスや排気熱により一酸化炭素中毒や火災の原因になります。排気口は風通しのよい広い場所に向けてください。
- 機械を設置したまわりには物を置かないでください。ガソリン等の危険物や可燃物は火災の原因や操作の邪魔になります。特に操作部は、無理のない姿勢で見え、操作できるように設置してください。非常時の対応が素早くできないばかりでなく、誤操作や操作時に高温部・高電圧部に接触し、ケガをします。
- 本機は、対象物と十分に離し、作業中に水や飛沫がかからない水平で平坦な場所に設置してください。傾斜した状態で使用するとガソリンの漏れや振動による移動、転倒の危険があります。また、衝撃・落下物のない安全な場所に設置してください。

◎始業前の注意事項

- 作業中の危険、トラブル防止のため必ず始業点検してください。
- 高圧ホースに損傷がないことを確認してから接続してください。
- 高圧ホースに屈曲、偏平が確認されたら交換してください。
- 高圧ホースやカプラの接続が確実か確認してください。漏れや外れにより、ホースが跳ってケガをしたり、高圧水を浴びる恐れがあります。

◎洗浄作業の注意事項

- タンク内などの閉所作業の場合はガス点検、換気などを十分注意した上、命綱（必要ならばガスマスク）を装着し、ノズル作業員を他の人が監視してください。
- 高所作業の場合は命綱を着用してください。（労働安全基準法に従ってください。）
- 洗浄作業はできるだけ平坦な場所で周囲を片づけてから行ってください。無理な姿勢での作業はしないでください。ケガをする原因となります。
- 必要に応じて対象物の周りをシートで覆い、建物等への飛沫を防止してください。

注意 農業機械・建設機械・自動車・オートバイの洗浄時の特別注意事項

農業機械・建設機械、自動車、オートバイなどを洗浄する際は、下記の点に十分注意してください。

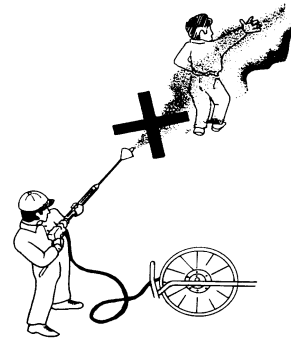
- ・塗装、メッキ面の被覆剥がれ、タイヤ・ガラス等の損傷。損傷を懸念される箇所を洗浄する場合は本機標準付属のバリアブルノズルを（扇射）にして使います。（*）
- ・ラベルシールは（直射）の圧力水を当てると簡単に剥がれます。本機標準付属のバリアブルノズルを（扇射）または、低圧に切り替えて洗浄してください。
- ・本機には、洗浄水が掛からないように注意してください。

（*）18 ページの『■運転』をよく読んでから洗浄・洗車作業を行ってください。

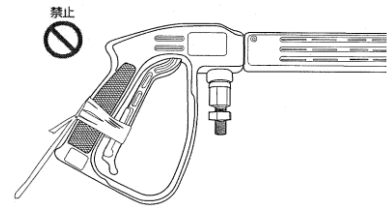
◎運転時の注意事項

- ガンノズルの先は絶対に人や動物に向けないでください。噴射停止の状態でも圧力調整装置（アンローダ）の構造上高圧ホース内に高圧水が残圧として封入されていますので不意の噴射で高圧水を浴びせる恐れがあります。
- 噴流の中に手足を入れないでください。ケガをします。
- ガンノズルのガンレバーは絶対にひもや針金等で固定しないでください。必ず手を離せば噴射が停止するようにして使用してください。緊急時の対応が遅れるだけでなく固定したままで、ガンノズルが手から離れますと、ノズルやホースが踊ってケガをしたり、高圧水を浴びる原因となります。
- ガンノズルから噴射する前に両手でしっかりとガンノズルを構えてから作業を開始してください。また、噴射作業中にガンノズルを手離さないでください。ガンノズルが踊りケガをしたり、高圧水を浴びる原因となります。
- エンジン始動の時、ガンレバーがロックしていることを確認してください。突然の噴射で高圧水を浴びる恐れがあります。
- 本機から離れる場合は、必ずエンジンを停止しガンレバーを握り高圧ホース内の残圧を抜いてください。不意の高圧水の噴射を防止できます。
- 高圧ホースを偏った方向から引っ張ったり、ホースで本機を引っ張らないでください。ホースを傷め、漏れにより高圧水を浴びたり、本機が転倒し、火災やケガの原因となります。特に作業中は高圧ホースに余裕を持たせ、本機の転倒・移動には十分注意してください。
- 運転中及び運転直後のエンジンの高温部（特にマフラー）、エンジンのオイル、ポンプ及びポンプのオイルは高温です。触れないでください。ヤケドします。

人や生物に向けない！



ガンレバーの固定禁止



(4) ご使用後の注意



警告

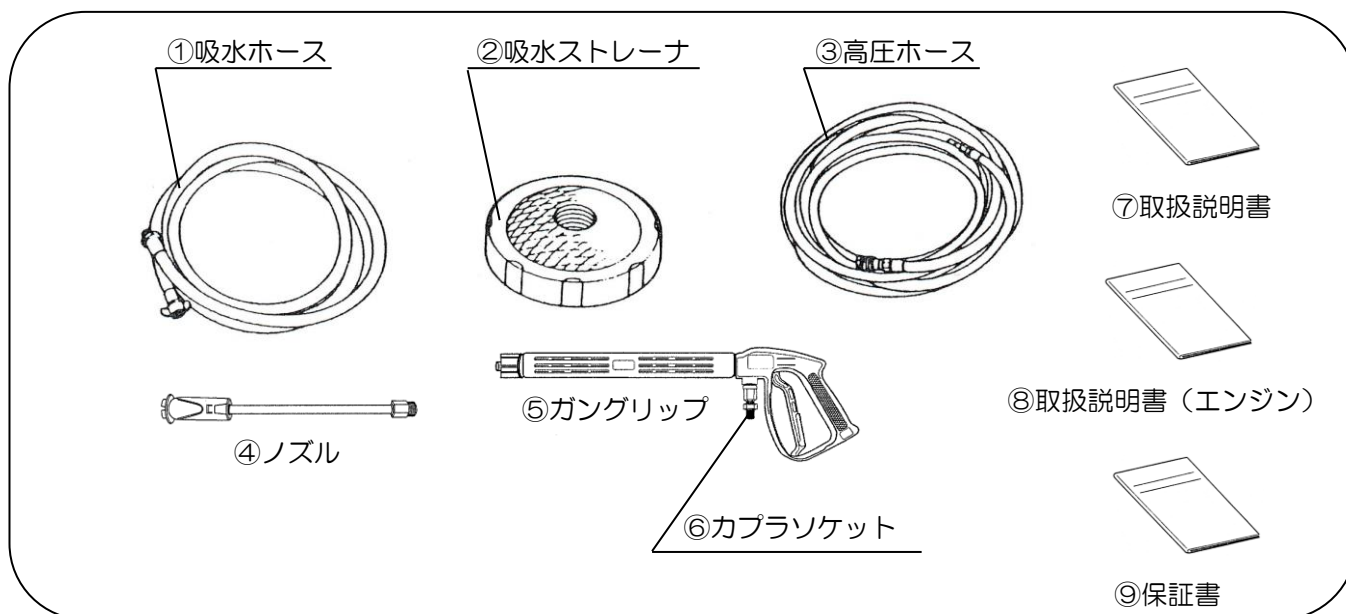
洗浄ガン内部に水が残っていると、凍結し故障の原因になります
冬季は内部に残った水が凍結し、洗浄ガンが破裂し、人体や対象物に損傷を与える可能性があります。
ガンレバーを握って洗浄ガン内部（ガングリップ・ノズル）に残った水を完全に排出して十分に水気を取った上で室内に保管してください。

- 作業後は、水抜きを行ってください。凍結により機械破損の原因となります。
- 機械についた水はきれいに取り去ってください。錆や故障の原因となります。
- 損傷箇所のある場合は、修理してから格納してください。この場合の部品、消耗部品は全て当指定の純正部品をご使用ください。
- 長期間使用されない時は、燃料を全て抜き取ってください。火災や故障の原因となります。
- 保管は湿気の少ない場所に、ホコリやゴミが付着しないようにしてください。火災の原因となります。
- エンジンが完全に冷えてから格納してください。火災の原因となります。
- 保護具は常に正常な機能を有するように点検・整備してください。

2. 各部の名前とはたらき

■標準付属品のご確認

梱包箱を開けたら、まず付属品が揃っているかどうか、確認してください。万一、付属品が足りない場合や破損していた場合は、すぐにお買い求めの販売店にお申し出ください。



No.	名称	部品番号	備考	個数
1	吸水ホース	548022	13×2.5M	1
2	吸水ストレーナ	122017		1
3	高圧ホース	548029	6×10m	1
4	ノズル	542616	バリアブルノズル 1.3	1
5	ガングリップ	544252		1
6	カプラソケット	548605		1
7	取扱説明書	834421	本機	1
8	取扱説明書	—	エンジン	1
9	保証書	—		1

■標準付属品のなまえとはたらき

①吸水ホース

タンクから水を吸い込むホースです。

②吸水ストレーナ

タンクへ沈め、水の中のゴミ等の不純物をろ過します。

③高圧ホース

ポンプで加圧された水をノズルへ送ります。

! 注意

- ・高圧水が通りますので、接続・損傷の有無を十分に確認してください。
- ・高圧ホースは修繕が利きません。摺れ、切断にご注意ください。
- ・高圧ホースを屈曲（キンク）させたり車輪で踏んだりしないでください。高圧ホースが傷つき、破裂の原因となります。

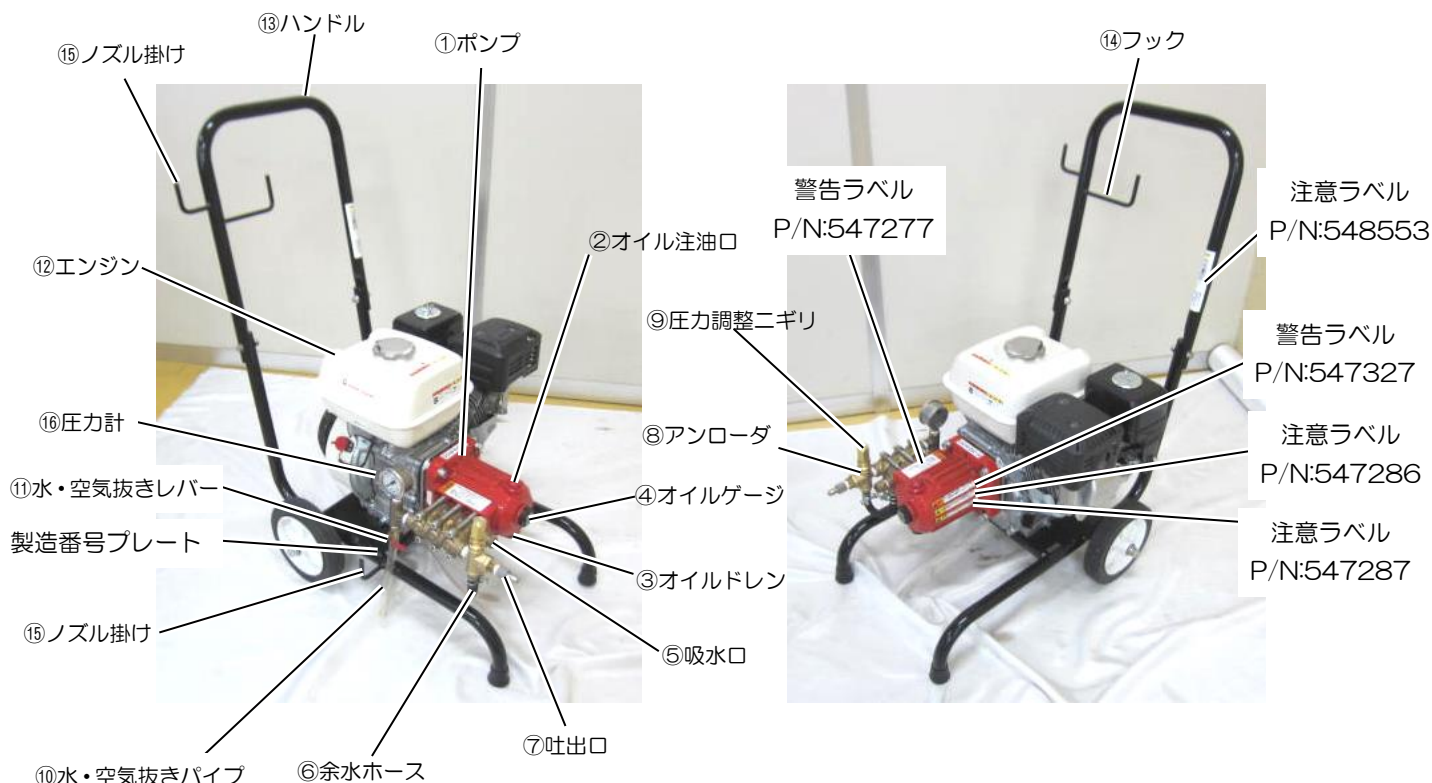
④ノズル⑤ガングリップ⑥カプラソケット

④ノズルと⑤ガングリップをセットにして使用し、⑤ガングリップに取付けた⑥カプラソケットで③高圧ホースと接続します。高圧水を対象物に噴射します。

⚠ 警告

- ・ノズル先は絶対に人や生物に向けないでください。
- ・噴流の中に手足を入れないでください。
- ・ガンレバーは絶対にひもや針金等で固定しないでください。必ず手を離せば噴射が停止するようにしてください。

■各部の名前



■各部のはたらき

①ポンプ

吸水ホースから水を吸い込み、加圧して高圧ホース、ガンノズルへ送ります。

②オイル注油口

ポンプの潤滑用オイルを入れる口です。

③オイルドレン

ポンプの潤滑用オイルをここから抜きます。

④オイルゲージ

ポンプの潤滑用オイルの量を確認するところです。

⑤吸水口

ここから水を吸い込みます。付属品の吸水ホースを接続します。

⑥余水ホース

ノズルから吐出されない水を吸水側へ戻します。

⑦吐出口

加圧された水の取り出し口です。付属品の高圧ホースを接続します。

⑧アンローダ

圧力の調整をする装置です。また、運転中に噴射を停止するとポンプ本体に圧力（負荷）をかけない構造になっています。この時、高圧ホース内には高圧水が封入されています。

圧力調整は⑨圧力調整ニギリを回して行います。

⚠ 注意

- 圧力調整時、噴射圧力を 4MPa より下げないでください。圧力調整ニギリが脱落する恐れがあります。
- 噴射圧力を最高圧力（15MPa）以上に上げると、故障や不具合の原因となり危険です。

⑩水・空気抜きパイプ

空気抜き作業時に空気及び水が排出される場所です。

⑪水・空気抜きレバー

レバーにて⑩水・空気抜きパイプからの水、空気の排出有無を切り替えます。

注意

●始動後は必ず閉めてください。水漏れにより、圧力が上がらなくなります。

⑫エンジン

ポンプを回す動力源です。詳しくは、同梱のエンジン取扱説明書をよく読んでください。

⑬ハンドル

移動時はこれを支えてください。

！ 注意

●エンジンが十分冷えてから移動してください。火災やヤケドの原因となります。

●本機を必要以上に傾けたり、移動時に手を離さないでください。機械転倒によりケガをします。

⑭フック

付属品の高圧ホース、吸水ホースを収納（引っ掛ける）ことができます。

⑮ノズル掛け

付属品のガンノズルを置き、保管することができます。

⑯圧力計

ガンノズルからの噴射圧力を確認します。

注意

・圧力計内部には振動による磨耗、ポンプの脈動を緩和するため、特殊な液体（グリセリン水溶液）が入っています。分解して、中の液体を抜かないでください。故障します。

3. 主要諸元

名 称		GSW15C-H
寸 法 （ 長 × 幅 × 高 ） mm		700 × 480 × 830
乾 燥 質 量 kg		28
ポ ン プ	名 称	SF30G-H (GSW15C-H)
	最 高 吸 水 量 L/min	11
	圧 力 MPa	15
	最 高 回 転 速 度 min ⁻¹	3600
	吸 水 口	G1/2
潤 滑 油 量 L		0.30
エ ン ジ ン	名 称	ホンダ [®] GP200
	定 格 出 力 kW/rpm	3.7
	始 動 方 式	リコイル式
	潤 滑 油 量 L	0.6
	燃 料 タ ン ク 容 量 L	3.1

●改良のため予告なく諸元を変更することがあります。

4. ⚠ 警告ラベルの取扱い

⚠ 注意

- いつも汚れや泥を取り、表示内容がハッキリと見えるようにしてください。
- 警告ラベルが損傷したなら、新しいものと交換してください。
- 警告ラベルを貼ってある部品を交換したときは、必ず新しい警告ラベルを、取り外した部品と同じ場所に貼ってください。

- 本機には、次の警告ラベルが貼ってあります。よく読んで理解した上で作業してください。
下記にその内容を記載してありますのでよく読んでください。

P/N 547277

 警告	●水道栓からの直接吸水は絶対に行わないこと。
	●ガンノズル先を人や生物に向けないこと。
	●ガンノズル先をのぞき込まないこと。
	●噴射流に手足を入れないこと。
	●噴射状態でガンのレバーを固定しないこと、手を離せば噴射が停止できる状態で使用すること。
P/N 547277	

P/N 547327

	警告 運転する時は清水を使用し、河川および湖沼からの直接吸水は絶対に行わないこと。 P/N 547327
---	---

P/N 547286

	注意 安全に作業するために取扱説明書をよく読んで機械の使い方を覚えてから使用すること。 P/N 547286
---	---

P/N 547287

	注意 エンジン回転中やエンジンが熱い間はマフラー、シリンダフィン、シリンダヘッドに触れないこと。 P/N 547287
--	--

P/N 548553

	注意  農業機械を洗浄する時は、機械を損傷させないように適切な距離から扇状に噴射してご使用下さい。
---	--

エンジン貼付けの警告ラベル

 注意 傷害事故防止のため、運転前に取扱説明書を読み、理解して正しく取扱うこと。	 警告 火災や爆発により死傷するおそれがあるので、●給油時にはエンジンを停止すること。●給油口に火を近づけないこと。
 警告 排気ガスによる中毒のおそれがあるので、換気の悪い所で使用しないこと。	 注意 ヤケドをするのでマフラーにふれないこと。

5. 始業前の準備

⚠ 注意

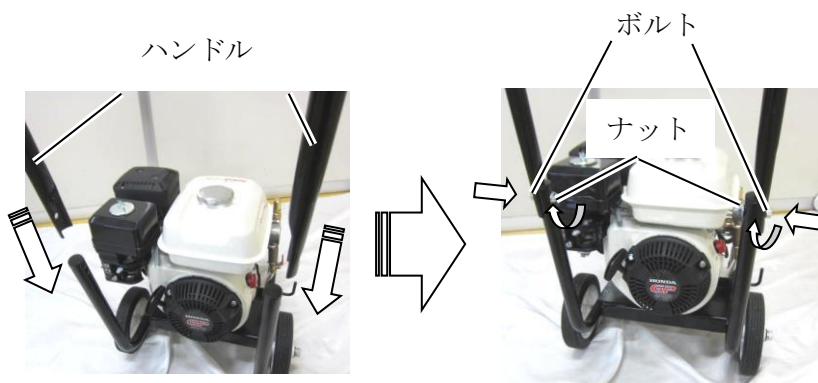
- 始業前の準備は、エンジンを停止して行ってください。事故やケガをします。

■ハンドルの組立

⚠ 注意

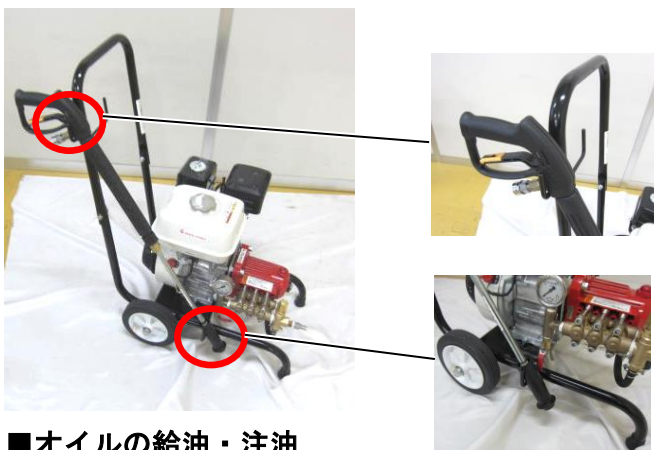
- ボルトは確実に締めつけてください。締付けが緩いとハンドルが外れ、ケガの原因となります。

- フレームにハンドルを取付けて、ボルトとナットでハンドルを締めつけてください。



■ガンノズルの設置

- ガンノズルをノズル掛けに設置して下さい



■オイルの給油・注油

注意

- オイルの給油、確認は機械を水平にして行ってください。焼き付きの原因となります。
- 出荷時、エンジン・ポンプにオイルは入っていません。ご使用前に必ずオイルを入れてください。
- 注油口フタ、エンジンのオイルゲージは確実に締めてください。緩いとオイルが漏れることがあります。

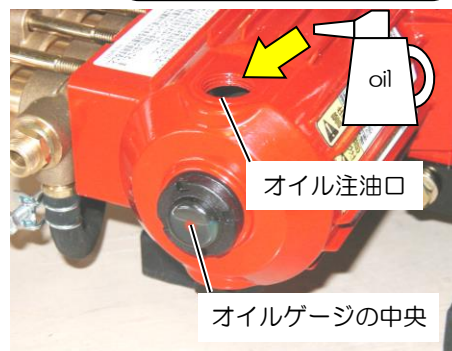
■ポンプへのオイル給油・補給

- 初めて使用される時は、オイルをオイルゲージの中央赤印まで入れてください。

オイルの種類は SH 級以上 SAE10W-30 のオイルを
オイルゲージの中央赤印まで入れてください。

オイル量は約 0.30 リットルです。

- ①オイルゲージの中央の赤印まで油面があるか確認してください。
 - ②少ない時には新しいオイルを補給してください。
- 汚れや変色が著しい場合は交換してください。
交換時期、方法は、21 ページを参照してください。
- ③給油・補給・交換後は注油口フタを確実に締めてください。



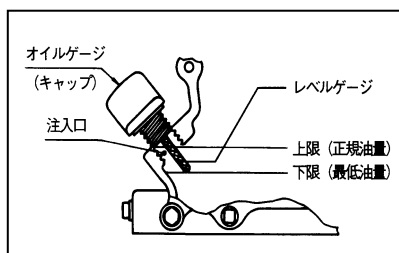
■エンジンへのオイル給油・補給

- 初めて使用される時は、オイルを入れてください。

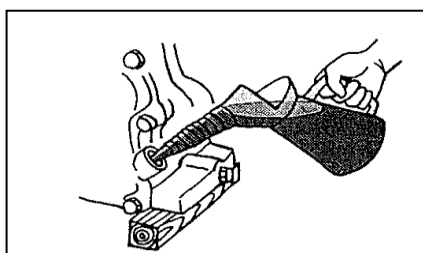
オイル量は約 0.6 リットル

オイルの種類は SE 級以上 SAE10W-30

- ①オイルが規定量入っている事を確認して下さい。
 - ②少ない時には新しいオイルを補給してください。
- 汚れや変色が著しい場合は交換してください。
 - 詳しくは同梱のエンジン取扱説明書をよく読んでください。
- ③給油・補給・交換後は注油口フタを確実に締めてください。



オイル点検



オイル補給

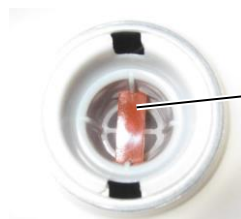
■燃料の給油

⚠ 危険

火災防止のため下記の項目を必ず守ってください。

- 給油中はエンジンを停止し、給油中は火気を近づけないでください。
- 燃料の入れ過ぎは危険です。燃料タンクストレーナレベルゲージ（赤色ゲージ）以下にしてください。
- こぼれた燃料は、必ず拭き取り、給油後燃料タンクのフタは、確実に締めてください。

- 燃料は自動車用無鉛ガソリンを使用してください。
- 燃料補給時には燃料タンクストレーナを必ず使用し、給油量は燃料タンクストレーナレベルゲージ（赤色ゲージ）以下で給油ください。
- 詳しくは同梱のエンジン取扱説明書をよく読んでください。



燃料タンク
ストレーナ
レベルゲージ
(赤色ゲージ)

■設置

⚠ 注意

- 本機には作業員以外の人や動物を近づけないでください。
- 周囲に火気やガソリン等の危険物、燃えやすいものがないことを確認してください。
- 換気の悪い場所では運転しないでください。また、エンジンの排気方向は塞がないでください。
- 機械を設置した周りには物を置かないでください。特に操作部は、無理のない姿勢で見え操作できるようにしてください。
- 本機は対象物と十分に離し、作業中に水や飛沫がかからない水平で平坦で衝撃・落下物のない場所に設置してください。
- 設置時に衝撃を与えないでください。

■吸水ホースの取付け

注意

- 吸水ホースの接続が不完全な時や吸水ホースを山なりにしたり、折ったり、つぶしたりすると空気を吸い込み、吸水しない、異常振動が出る等で機械の寿命を縮めることがあります。

- 吸水ホースを吸水口に取付けます。
- 取付け前に吸水ホースの取付けねじ部内にあるパッキンの紛失及び破損が無いか確認してから吸水口に最後までしっかりとねじ込んでください。

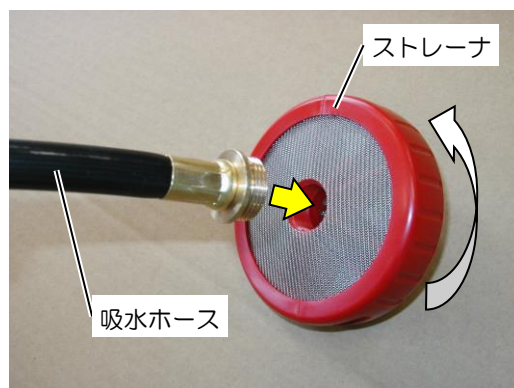
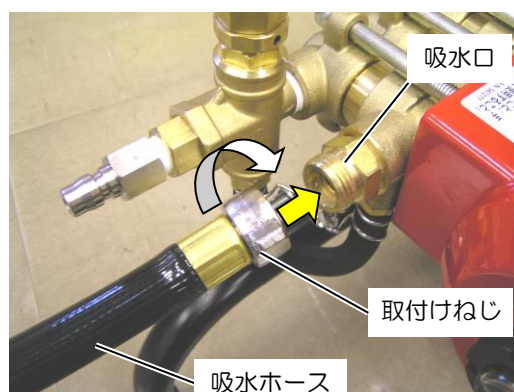
- ホースは山なりにしたり、折ったり、つぶしたりしないでください。

■吸水ストレーナの取付け

注意

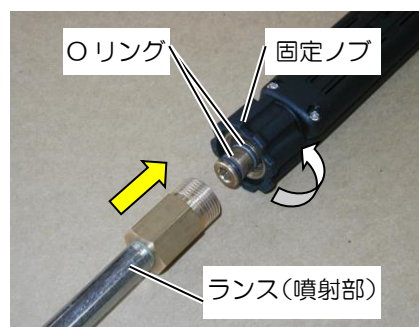
- 使用する度に清掃してください。

- ストレーナを吸水ホースの先端に最後までしっかりとねじ込んでください。



■ガンノズルの組立

- Oリングの紛失及び破損がないか確認してからランス（噴射部）をガンに押し込んで固定ノブを回して組みつけてください。

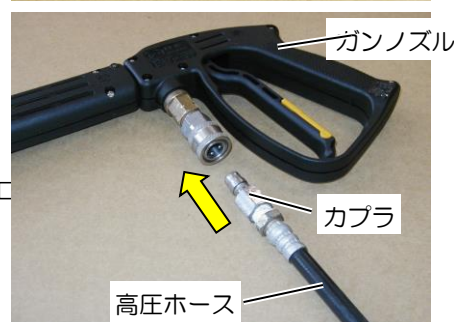
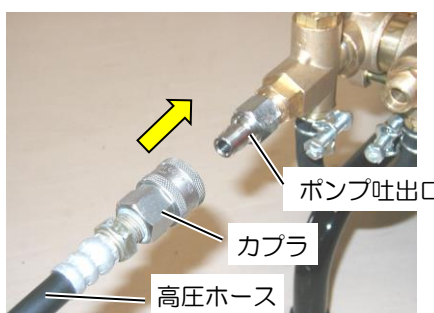
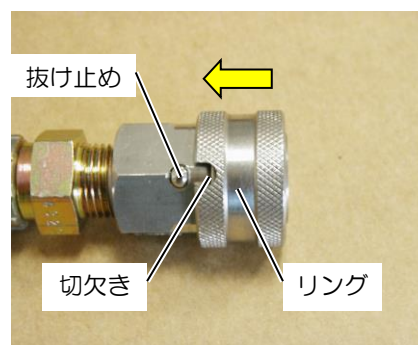


■高圧ホースの取付け

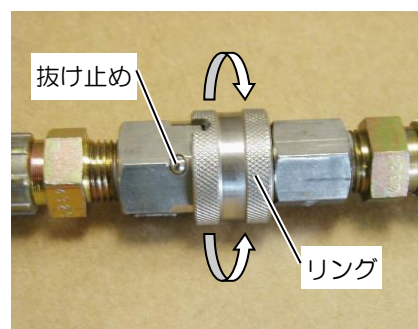
⚠ 危険

- 高圧ホースの接続は確実に行ってください。事故やケガの原因となります。

- カプラのリングの切欠きを抜け止めの位置に併せ、抜け止めの方向にリングを引いてください。
- 高圧ホースのカプラをポンプ吐出口及び、ガンノズルに確実に差込み、「カチン」と音がするまで強く、押し込んでください。



- カプラを押込んだ後のリングを回し、抜け止めが効いた状態にしてください。
- ホースを左右に引いて外れないことを確認してください。



6. 始業点検

⚠ 注意

- ケガや事故防止のため、点検整備を行う時には必ずエンジンを停止し、水平で明るい場所で行ってください。
- エンジンをかけた状態で点検整備を行う必要がある場合には自分で行わず、必ず最寄の取扱店に依頼してください。ケガや事故の原因となります。

- 故障を未然に防ぐには機械の状態をいつも知っていることが大切です。始動前には必ず下記の点検を行ってください。

区分	項目	点検内容	処置
各区分共通	ネジ・ボルト	ネジ、ボルトの緩み、脱落はないか	点検・締付をします
		変形・損傷はないか	修理を依頼します
		ゴミやホコリの堆積はないか	清掃します
ポンプ	潤滑油	ゲージ中央の赤印に油面があるか	赤印まで補給します
		オイルが汚れていないか	交換します
		オイル漏れはないか	修理を依頼します
ホース関係	ストレーナ	使用する毎に清掃しているか	清掃します
		ストレーナの破損はないか	交換します
	吸水ホース 高圧ホース	ホースの損傷はないか	交換します
		パッキンの紛失・損傷はないか	補充・交換します
		ネジ部の損傷はないか	交換します
		接続部に異物はないか	清掃します
ガンノズル	ガン部	ガンレバーの作動は正常か	修理を依頼します
	ノズル部	詰まりはないか	清掃します
	カプラ部	変形・損傷はないか	交換します
		接続部に異物はないか	清掃します
エンジン	潤滑油	規定量のオイルが入っているか	規定レベルまで補給します
		オイルが汚れていないか	交換します
		オイルの漏れはないか	修理を依頼します
	燃料	燃料の漏れはないか	修理を依頼します
		燃料タンクに燃料が入っているか	燃料を給油します
	エアクリーナ	エレメントは汚れていないか	清掃します
全体	異常音	異常音はないか	運転を停止して原因を調べます
	異常振動	異常振動はないか	運転を停止して原因を調べます
	水漏れ	水漏れはないか	運転を停止して原因を調べます

※エンジンについて詳しくはエンジンの取扱説明書をお読みください。

7. 始業運転

- 作業前に清水にて始業運転（16～20 ページ、始動、運転、停止）を行い、異常がないことを確認してください。
 - タンクの中のゴミや沈殿物を取り除いてください。
 - タンクに必要な量の清水（上水道）を入れてください。
 - 吸水ホースと吸水ストレーナをタンクの中に沈めてください。
- ※始業運転中に以上があった場合には、ただちに停止して、23 ページの故障診断を参考にして処置してください。

⚠ 注意

- 飲料用水源及び生物を飼育している湖沼からの直接吸水は、絶対に行わないでください。

注意

- 0～40℃の水を使用してください。高温水の使用は故障の原因になります。
- 外気温が低くポンプが凍結している恐れがある場合は、ポンプを温水等で温めてから使用してください。ポンプが凍結したまま使用するとポンプが破損します。
- 清水（上水道）を使用してください。泥や砂等が混入している水は使用しないでください。また、農薬、化学薬品、高粘度液、海水、温泉水やこれらを含む汚水は使用できません。故障の原因となります。
- 目詰まり防止のため、使用する度に吸水ストレーナを清掃してください。
- 吸水ストレーナが完全に水中に沈むようにしてください。故障や吸水しない原因になります。
- 吸水ストレーナは本機の設置面の高さより 30cm 以上低くならないようにしてください。故障や吸水しない原因になります。
- 吸水ホースがタンクの縁などでつぶれないようにしてください。故障や吸水しない原因になります。

8. 始動

⚠ 注意

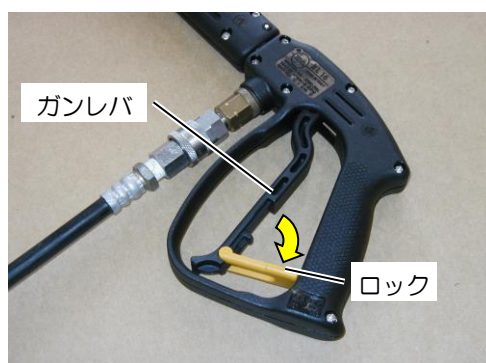
- 作業前に清水で運転し、各部の異常や漏れがないことを確認してください。
- 運転中、運転後のマフラーは高温です。ヤケドしますから触れないでください。

■ガンノズル

- ガンレバーをロックしてください。

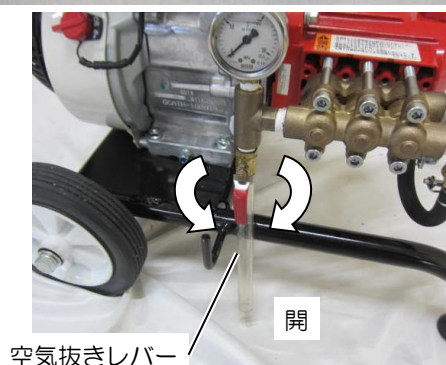
⚠ 注意

- ガンレバーをロックしていないと、不意にノズルから噴射する恐れがあり、事故の原因となります。



■水・空気抜きレバー

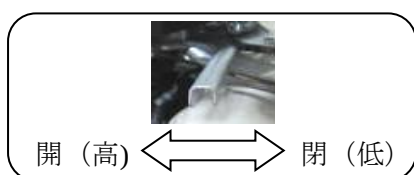
- ・水・空気抜きレバーを全閉の位置から開いてください。



■エンジン

●詳しくはエンジン取扱説明書をよく読んでください。

1. 燃料コックを開いてください。
2. エンジンスイッチを「ON」にしてください。
3. スロットルレバーを「半開」にしてください。
4. チョークレバーを「全閉」の位置にしてください。但しエンジンが暖まっている時はチョークレバーを「開」の位置にしてください。
5. 本機をしっかりと押さえ、リコイルスタータグリッパを握り、圧縮位置まで軽く引き、この位置から勢いよく引っ張ってエンジンを始動してください。

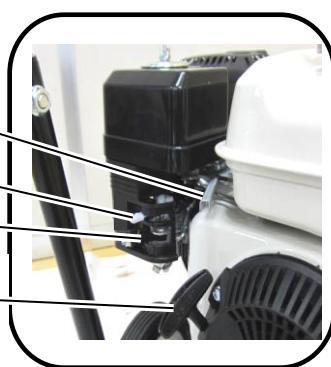


スロットルレバー

チョークレバー

燃料コック

リコイルスタータ
グリッパ



エンジンスイッチ

! 注意

- マフラーに手を置いて操作しないでください。ヤケドします。
- リコイルスタータグリッパを引いたまま手を離さないでください。始動装置を破損することがあります。
- 運転中はリコイルスタータグリッパに触れないでください。エンジンに悪影響を与えます。

●2～3 回スタータを引いても始動しない場合は、燃料の吸い過ぎとなり、始動困難になることがありますので、チョークレバーを「開」にしてから操作してください。

■空気抜き作業

注意

- 空気抜き作業を完全に行わないと、規定の圧力まで上昇しなくなったり、圧力振動を起こし、故障の原因となります。
- 1 分以内に吸水しない場合には直ちにエンジンを停止してください。故障します。吸水ホースの接続、ストレーナや水源をもう一度確認してください。
- 空気抜き作業をしても吸水できない場合は、吸水ストレーナを外して水道栓からビニルホース等で水を送り込んでください。水・空気抜きパイプから水がでたら、吸水ストレーナを元に戻して空気抜き作業を行ってください。それでも吸水しない場合は、最寄の取扱店に点検・修理を依頼してください。

1. エンジンが始動しますと、ポンプも始動し吸水を始めますので、水・空気抜きパイプから水が勢い良く出ることを確認してください。
2. 水・空気抜きレバーを全閉の位置にしてください。
3. エンジンの調子を見ながら徐々にチョークレバーを「開」に戻してください。最後は必ず「全開」にしてください。

■暖機運転

●スロットルレバーを低速側にして2～3 分間ほど暖機運転してください。

注意

・ガンノズルから噴射しない状態で5 分間以上運転しないでください。故障の原因となります。

●異常音・異常振動・水漏れがないか確認してください。

9. 運転

⚠ 注意

- 操作時にマフラ等熱くなる部分に触れないでください。ヤケドします。

■運転時、作業時の注意事項

⚠ 警告

- ガンノズルの先を人や動物に向けないでください。
- 噴流の中に手足を入れないでください。
- ガンレバーは絶対に噴射状態でひも、針金等で固定しないでください。緊急時の対応が遅れます。

⚠ 注意

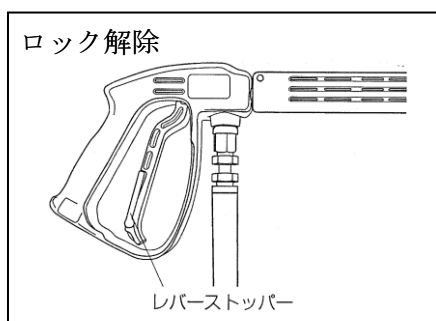
- 作業中は異常音、異常振動、液漏れに注意し対処してください。事故や高圧水を浴びます。
- 高圧ホースを偏った方向に引いたり、ホースで本機を引かないでください。
- エンジン運転中に作業を一時中断する時は、必ずガンレバーをロックしてください。万一の噴射を防止できます。

注意

- エンジンの回転数は本機の振動が大きくなる点（共振点）では使わないでください。
- エンジンを始動させたままで、5分以上、ガンノズルからの噴射を停止しないでください。
ポンプ内で水が循環し、高温となり故障します。5分間以上噴射を停止するときはエンジンを停止させてください。
- タンクの水の残量に注意し、吸水しなくなったら直ちにエンジンを停止してください。

■運転

1. エンジン始動の状態からスロットルレバーを「高速」にしてください。
詳しくはエンジンの取扱説明書をよく読んでください。
2. ガンレバーのロックを解除してください。ガンノズルを手でしっかり握り、中間部を持って、ノズル先を対象物に向けてガンレバーを握ると高圧水が噴射されます。レバーを離すと噴射が停止されます。

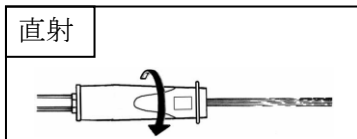


■洗浄時の注意事項

- 対象物にノズルを近づければ、洗浄力が増すわけではありません。洗浄力が高くなるのは20～25cmの距離です。
- 堅くこびり付いた汚れ、例えば車についた泥などは水圧だけではおちません。水流を弱くしてブラシなどを併用してください。

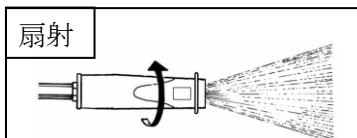
10. 洗浄ノズルの使い方

ガンノズルは、ノズルを前後に動かすことにより吐出圧を高圧・低圧に切り替えることができ、また、それぞれの圧力で、ノズルを回転させることにより噴流の形状を直射・扇形と無段階に調整できます。

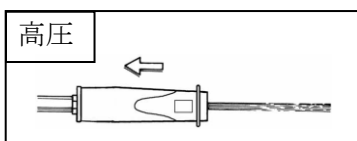


先端を矢印の方向に回すと、(直射)になります。剥離や樹木の皮剥ぎなど強い打力を必要とする時に使います。

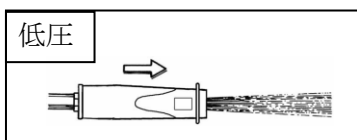
対象物にノズルを近づければ、洗浄力が増すわけではありません。洗浄力が高くなるのは20～25cmの距離です。



先端を矢印の方向に回すと、(扇射)になります。建設機械や農業機械の床洗浄や器材の洗浄時に使います。



先端を手元に引くと、高圧になります。手前に押出すと、低圧に戻ります。低圧モードは、高圧洗浄で飛び散った汚れの仕上げ洗浄等に使います。

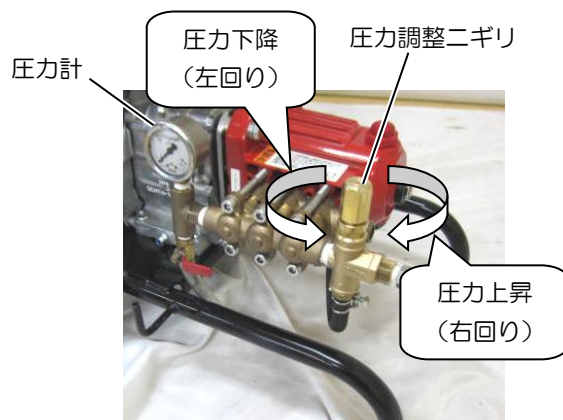


■ 圧力の調整

- 圧力調整ニギリを回す事により噴射中の圧力を調整することができます。

圧力調整範囲：4～15MPa

- 圧力調整ニギリを右に回すと噴射中の圧力は上昇し、左に回すと圧力は下降します。
- 圧力調整は圧力計で圧力を確認してください。



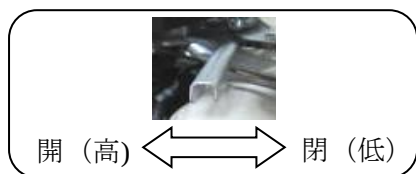
⚠ 注意

- ・ 噴射圧力は4 MPa より下げないでください。圧力調整ニギリが脱落する恐れがあります。
- ・ 噴射圧力は最高圧力(15MPa)を超えて運転すると、事故や不具合の原因となり危険です。
- ・ 噴射停止の状態ではポンプ内の圧力は0MPaとなります。圧力調整は噴射中の状態で行ってください。

1 1. 停止

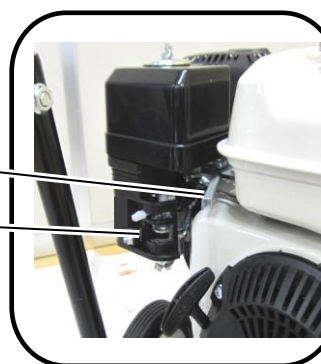
■停止

- エンジンについては、同梱のエンジン取扱説明書をよく読んでください。
- 1. 作業が終了したら、ガンレバーを離して噴射を停止し、ガンレバーをロックしてください。
- 2. スロットルレバーを「低速」にして、2～3 分間冷却運転してください。
- 3. エンジンスイッチを「OFF」にしてエンジンを停止してください。
- 4. ガンレバーを握り高圧ホース内の圧力を抜いてから、再びガンレバーをロックしてください。
- 5. 燃料コックを閉じてください。



スロットルレバー

燃料コック



エンジンスイッチ

■緊急停止

- 緊急にエンジンを停止する時は、エンジンスイッチを「OFF」にしてください。

⚠ 注意

- 冷却運転を行わずにエンジンを停止するとバックファイヤにより破裂音がすることがあります。
- 緊急停止は機械に負担をかけ寿命を縮めますので、緊急時以外は行わないでください。

1 2. 作業終了後

⚠ 警告

洗浄ガン内部に水が残っていると、凍結し故障の原因になります

冬季は内部に残った水が凍結し、洗浄ガンが破裂し、人体や対象物に損傷を与える可能性があります。ガンレバーを握って洗浄ガン内部（ガングリップ・ノズル）に残った水を完全に排出して十分に水気を取った上で室内に保管してください。

⚠ 注意

- 高圧ホースを外す時は、ガンレバーを握り、残圧を抜いてから外してください。高圧水を浴びます。
- 本機の清掃をする時には、高圧洗浄機を使用しないでください。可動部、シール部に水が浸入し、破損や内部の錆などの原因となります。
- 本機を持上げ移動するときは、エンジンがよく冷えていることを確認してから移動するようにしてください。

注意

- 空運転及び水抜きは確実に行ってください。凍結により機械破損の原因となります。
- 空運転は機械保護のため 1 分間程度以内にしてください。
- 機械についた水はきれいに取り去ってください。発錆や故障の原因となります。
- 損傷箇所のある場合は、修理してから格納してください。この場合、部品、消耗部品は全て当社指定の純正部品をご使用ください。
- 機械は凍結の恐れがなく、直射日光の当たらない、湿気の少ない室内に保管してください。

- エンジンについては、同梱のエンジン取扱説明書をよく読んでください。
 1. エンジンを始動させ、スロットルレバーを低速側にしてください。
 2. 水・空気抜きレバーを開き、吸水ホース、吸水ストレーナをタンクから引上げてください。
ガンレバーを握り、各ホース内の水を排出し、水抜きを行ってください。（空運転）
 3. 各ホース内の水が排出されたら、すぐにエンジンを停止してください。
 4. 凍結破損防止のため、水・空気抜きレバーはあけておいてください。
 5. 燃料コックを閉じてください。
- 6. 吸水ホースを外し、水を取除き、接続部にゴミや砂が入らない様に注意して、ハンドルのフックに格納してください。
- 7. 高圧ホースとガンノズルを外し、水を取除き、接続部にゴミや砂が入らない様に注意して、ハンドルのフックにそれぞれ格納してください。

13. 保守点検

⚠ 注意

- 分解点検作業は、専門の業者に依頼するか、最寄の取扱店にご相談ください。
- ケガや事故防止のため、点検整備を行う時には必ずエンジンを停止し、水平で明るい場所で行ってください。
- エンジンをかけた状態で点検整備を行う必要がある場合には自分では行わず、必ず最寄の取扱店に依頼してください。ケガや事故の原因となります。

●機械を常に良好な状態で使うため、次の表に従って定期的に保守点検を行ってください。

項目 \ 時間		50 時間ごと	100 時間ごと	200 時間ごと	300 時間ごと	500 時間ごと
本 機	各ボルトの締付け	毎運転前				
	ポンプのオイルの交換	初回 20 時間	○			
	ポンプ本体の分解・点検				※○	
	アンローダの分解・点検				※○	
	エンジン	エンジンについては同梱のエンジン取扱説明書に従ってください。				

※印は、最寄の取扱店に依頼してください。

■点検整備の方法

- ポンプオイルの交換

⚠ 注意

- オイルを抜く時は、十分オイルが冷えてから行ってください。
- オイルの交換等で出た廃油を投棄・焼却等しないでください。水質汚濁、土壌汚染、大気汚染になります。最寄の取扱店またはお近くのガソリンスタンドにご相談ください。
- オイルを給油する時は機械を水平にして行ってください。焼き付きの原因となります。

1. オイルドレンを外し、オイルを抜いてください。
 2. 新しいオイルを給油口から入れてください。油面がオイルゲージの中央の赤印にくるように入れてください。
オイルの種類は、SH 級以上 SAE10W-30。オイル量は約 0.30 リットルです。
 3. 給油後、注油口フタを手で確実に締めてください。
- エンジンについては、同梱のエンジン取扱説明書をよく読んで整備してください。

1 4. 長期格納

- 長い間使用しない場合は、次の要領で手入れしてください。

⚠ 危険

- 燃料を入れたままですと、火災の原因になります。また、燃料の変質で次の始動が困難になります。必ず燃料は、抜いてください。
- 火災防止のため、燃料を抜く時はエンジンを停止して、火気を近づけないでください。また、風通しのよい場所で行ってください。
- 抜いた燃料は、金属缶に入れて保管するか、他の機械で使用するなど危険のないように処理してください。

注意

- エンジンオイルは自然に劣化します。使用しない場合でも6ヶ月に1回は新しいオイルと交換してください。

- エンジンについては、同梱のエンジン取扱説明書をよく読んでください。
 1. 保守点検項目を確認してください。
 2. 不具合箇所を整備してください。
 3. ポンプの水抜き運転（空運転）をしてください。
※空運転は機械保護のため1分以内にしてください。
 4. 各ホース、ガンノズルの水分を取り、ゴミや砂が付かないようにしてフックに格納してください。
 5. 凍結破損防止のため、水抜きを十分に行い、水・空気抜きレバーは開けておいてください。
 6. 燃料タンクと気化器から燃料を抜いてください。（エンジン取扱説明書参照）
 7. 燃料コックを閉じてください。
 8. ポンプとエンジンのオイルを交換してください。
 9. スタータグリップを引いて、重く手ごたえのあるところ（圧縮位置）で止めてください。
 10. 塗装のはがれた部分は、サンドペーパー等で錆を落とし、塗料を塗ってください。
 11. 機械外部を清掃し、オイルのしみた布できれいにみがいて錆止めをしてください。
 12. 箱等に入れ、湿気の少ない風通しのよい室内に保管してください。

15. 故障診断

注意

●分解点検作業は、専門の業者に依頼するか、最寄の取扱店にご相談ください。

この項目を確認しても故障が直らない場合およびこの項目にない症状がでた場合は、最寄の取扱店にお問合せください。

■エンジンのトラブル

症状	原因	対策
気化器に燃料がこない	燃料がない 燃料コックが閉じている 燃料コック部のストレーナの詰まり 燃料パイプの折れ曲がり、詰まり	補給 開く 点検清掃 点検清掃、交換
燃料があり点火プラグが発火しない	スイッチが「OFF」の位置にある 燃料の吸い過ぎ 点火プラグの間隙不良 点火プラグの絶縁不良	「ON」にする 乾かす 調整、交換 点検清掃、交換
燃料があり点火プラグが発火する	燃料の不良 エンジンが冷えているのに チョークレバーが開いている エンジンが暖まっているのに チョークレバーが閉じている エアクリーナエレメントの目詰まり	交換 閉じる 開く 点検清掃

* エンジンのトラブルについてはエンジンの取扱説明書とあわせて確認してください。

■ポンプのトラブル

症状	原因	対策
吸水しない	清水（上水道）以外の使用 空気抜き作業を行っていない 吸水ストレーナの目詰まり 吸水ホースの破損 吸水ホースの締付不良 吸水ホースのパッキン不良、脱落 タンクに水がない 吸水ストレーナが水中にない 吸水ストレーナの高さが本機より 30cm 以上低い位置にある	清水（上水道）を使う 空気抜き作業を行う 点検清掃 点検交換 締付け 交換 水を入れる 水中に沈める 30cm 以下にする
圧力が上がらない	使用ノズルの噴霧量が多過ぎる ノズルの磨耗 吸水量の不足 アンローダの故障	適正ノズルに交換 点検交換 上記吸水しないの項 交換

16. サービスと保証について

■保証について

保証期間、保証内容は保証書に記載されています。保証書を読んで確認してください。

保証書はお客様が保証期間中に保証修理を受けるときに、ご提示いただくものです。お読みになられた後は大切に保管してください。

製品を改造した場合や取扱説明書に述べられた正しい使用目的と異なる場合や、使用上の誤りは、メーカーの保証対象外になりますので、ご注意下さい。

■アフターサービスについて

○始業点検時や使用中に不具合が発見された場合は、故障と対策を見て適切な処置を取ってください。

分からない場合は、最寄の取扱店にご相談ください。

○連絡していただく内容

●機種名 ●製造番号（貼付け位置はP 9 参照） ●故障内容

なにが・どうしたら・どんな状態で・どうなったかを詳しくお話しください。

○本製品を安全にご使用いただくには、正しい操作と定期的な整備が不可欠です。

年に一度は、最寄の取扱店に点検整備をお願いしてください。この時の整備は有料となります。

■補修部品の供給年限について

本製品の補修部品の供給年限は、本製品の製造打ち切り後9年です。但し、供給年限内であっても、特殊部品については納期等をご相談させていただく場合があります。補修用部品の供給は、原則的には、上記の供給年限で終了しますが、供給年限経過後であっても、部品供給のご要請があった場合には、納期及び価格についてご相談させていただきます。

Memo

Memo

製品に関するお問合せ等は、まず、ご購入の販売店にご相談ください。
または、下記の全国共通の無料通話でもお受けいたします。

丸山サポートセンター

無料通話 0120-898-114

受付時間 9:00～17:00(土、日、祝日を除く)

製品に関してお問合せいただく際は、正確にご対応させていただくため、あらかじめ、下記の事項をご準備ください。

- ①製品型式名、製造番号
- ②ご購入年月日
- ③販売店名



株式会社 **丸山製作所**

本社/東京都千代田区内神田 3-4-15 TEL 03(3252)2281 (営・代表) 〒101-0047